

1. 趣旨

この報告書は、「図書館法」(昭和25年法律第118号)第7条の3、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年文部科学省告示第172号)、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」(平成21年教育委員会規則第6号)第1条の2及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」(平成6年教育委員会規則第9号)第2条に基づき、令和元年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

2. 評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第3章 実施計画編(平成30年度～令和2年度)の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、令和元年度の市川市立図書館の評価を行った。

3. 評価の基準について

市川市立図書館の「7つの施策の方向」の各項目について、取り組み内容と目標値の達成度を総合してA～Dの4段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3つの柱」についての取り組みを4段階評価で表した。(3つの柱と7つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。)	A
概ね達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。)	B
やや不十分だった。(実施したが、十分な成果をあげることができなかった。)	C
不十分だった。(実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。)	D

4. 自己評価結果

令和元年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の3つの柱のうち「子どもの成長をサポートする図書館」「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の2つについては、目標を達成することができA評価となった。特に、子どもへのサービスについては、参加・体験型の定例行事の開始やパスファインダーの作成・配布等、子どもと本を結びつける活動を積極的に展開した。

「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、自動貸出機等の導入により利用者の利便性の向上を図り、外部施設と連携したイベント等を利用して図書館サービスのPRに努めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の影響もあり、利用登録者数が目標値に僅かに至らなかったためB評価となった。

全体としては、7つの施策の方向のうち5つがA評価、2つがB評価であったため、令和元年度の目標は概ね達成でき、一定の成果をあげたと評価できる。

5. 令和元年度市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見 …詳細は別紙

外部有識者2名(図書館情報学)から、令和元年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

# 令和元年度「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

## 総合結果

### 1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評価	<input type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input checked="" type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------

資料の受入冊数については目標値に届かなかったが、図書館のすべての資料にICタグを貼付したことで、効果的な蔵書管理につなげることができた。また、自動貸出機等の導入により、利用者の利便性の向上を図った。

今後は適正な資料の選定・維持により市全体として蔵書のバランスを考慮した調整を図るとともに、媒体にとらわれない情報資源整備に努め、関連施設とも連携をとりながら図書館利用の拡大を引き続き進めていく。

### 2. 子どもの成長をサポートする図書館

評価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

児童・青少年資料や学校向け貸出資料の受入冊数は目標値に届かなかったものの、新たな参加・体験型イベントの実施やパスファインダーの作成・配布等、児童・ヤングアダルト世代に対するサービスを積極的に展開し、大部分の項目において目標を達成した。

今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のために3月からイベントの開催を見合わせたことを考慮し、今後は地域の感染状況を踏まえつつ安全性が確保できる形で、子どもが読書に親しめるサービスを展開していく。

### 3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

パスファインダーや図書館のホームページなどさまざまなツールで、地域情報を積極的に発信することができた。デジタルアーカイブシステムでの公開に向け、地域資料のデータ整備や画像登録をすすめたほか、地域情報データベースの更新等、多様な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成した。また、行政各部署と連携した行事や展示を行い、行政情報を市民に提供することができた。

今後も、地域の文化を後世に伝えるために地域資料の電子化を継続して行い、積極的な地域情報の発信を図る。

## 令和元年度の取り組み内容

### 一つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

#### 施策の方向 1-(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替えによる蔵書の適正な維持(購入と寄贈の合計冊数)	50,000冊	42,234冊	B
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・導入の検討	調査・導入の検討	
	・障がいの特性に応じた資料の収集と目録の整備	DAISY図書目録の作成	DAISY図書 追録版 目録の作成	
③効果的な蔵書管理	・図書館資料へのICタグの貼付及びIC機器導入と、全館的なICタグによる蔵書管理の実施	IC機器の導入	IC機器の導入	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の設置と活用	可動式書庫の活用	可動式書庫の活用	

#### 実績と評価

IC機器導入に向けワーキンググループを設置し、機器の選定や運用についての検討を進めた。平成29年度から始めた蔵書へのICタグ貼付は、今年度図書館のすべての蔵書への貼付・登録を完了し、12月には全館でIC機器を導入した。中央図書館および行徳図書館に、自動貸出機・自動返却機、IC予約棚を設置することで、利用者の貸出情報等のプライバシー保護や待ち時間の短縮といった利便性の向上につながった。また、新型コロナウイルス感染症による臨時休館中(3月)には、IC機器での蔵書点検を全館で行い、全蔵書にICタグを貼付したことで効率的な蔵書管理を行うことができた。

蔵書の受入れ冊数は目標値の85%弱となった。10月の消費税率引き上げにより購入単価が増加したことが一因としてあげられる。

#### 課題

電子書籍の収集については、コンテンツの充実や廉価版の普及等、市場の成熟度を見極め、導入時期を検討する必要がある。電子資料としての特性を考慮して、障がい者等、使用対象者を特定した導入の方法も課題である。

#### 方向性

限りある予算を有効に活用するために、市全体としての蔵書のバランスを考慮した調整を図ったうえで、的確な資料選定を継続していく。

## 施策の方向 1-(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の提供	継続発行・発展	継続発行・発展 (15回)	B
	・市内外の図書館等との連携の強化 (レファレンス協同データベースへの事例提供)	実施	実施(231点)	
	・市民の学習要求や調査研究に応えるデータベース等の提供及び利活用の促進	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・図書館ホームページ、デジタルコンテンツ等の情報環境の整備	実施	実施	
③生涯学習機会の拡充	・中央図書館及び地域図書館の特性を活かしたサービスの拡充とPRIによる利用の促進(図書館利用登録者数の拡大)	前年度比増 (前年度29,095人)	28,405人	
	・北部地域の図書館サービスの充実	実施と周知	実施と周知	
	・イベントの開催や地域イベントへの参加・協力	実施	実施(13回)	

### 実績と評価

レファレンスサービスについては全館で約 61,000 件の受付・回答を行い、事例集である「参考業務月報」を 10 回発行したほか、市民の調査研究に役立てるため、新たに 5 つのテーマでパスファインダーを作成・配布し、図書館ホームページでも情報を公開した。また、レファレンス協同データベースへは前年を上回る 231 件の事例の提供を行い、アクセス件数も約 22 万件と昨年より 2 万件近く増加した。

10 月に開催したイベント「蓄音機で奏でる SP レコードの世界」は、アンケートで参加者の 94.1%が「楽しかった」と回答し好評だった。講座後には、国立国会図書館データベース「歴史的音源」について、中央図書館のデータベース端末での使い方をまとめたリーフレットを作成・配布し、図書館職員が使い方の説明を行うことで、データベースの利活用の促進を図った。

図書館利用登録者数については、近隣商業施設でのイベントへの参加や、大柏川ビジターセンターでの自動車図書館車の展示等、積極的に図書館利用の促進を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の影響もあり、目標値に僅かに至らなかった。

北部地域の図書館サービスとして、前年度の 3 月に西部公民館図書室の資料をバーコード化し、蔵書管理と利用者登録等を図書館システムに一元化したことを受け、今年度も引き続きサービスの定着・普及に努めた。

### 課題

利用案内の整備や図書館の活用についてのPRを進める。利用登録者数拡大のため、図書館未利用者の来館につながるような広報活動が課題である。

### 方向性

利用者サービスの向上を目指し、新型コロナウイルスの感染状況等、社会情勢を注視しながら図書館の利用を促進するためのイベントの開催や広報活動を行っていく。

## 施策の方向 1-(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携による図書館サービスの充実	実施	実施	A
②大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施 (146件)	
	・市内大学及び大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	実施	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施(5名)	
③ボランティアとの連携強化	・図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	実施(4回)	
	・障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施	実施(23点)	

### 実績と評価

各地域における図書館サービスの充実については、自治会等との調整を進め、固定館では補いきれない地域に自動車図書館のステーションを 2 ヶ所開設した。

市民の大学図書館利用のための紹介状の発行数は 146 件で、市民が大学図書館の持つ専門的な資料へアプローチするための橋渡しができた。和洋女子大学と連携した図書館見学会や、市川駅南口図書館が実施した大学図書館での出張登録会は、毎年継続して行っており定着してきている。大学の図書館実習やインターンシップの受入れを積極的に行い、大学とのネットワーク強化に繋がった。

### 課題

公民館図書室や大学図書館等、関連施設の各々の役割を踏まえつつ、市民が各関連施設で一定レベルの図書館サービスを楽しむように連携を強化していく必要がある。

### 方向性

地域住民の利便性向上のため、各関連施設で一定レベルの図書館サービスを提供していくことを目指す。また、図書館の仕事を理解し応援してもらえるようにボランティア活動の支援に努めていく。

## 二つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

### 施策の方向 2-1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	受入れ冊数 (9,000冊)	受入れ冊数 (8,815冊)	A
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	継続実施及び充実	継続実施及び充実	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についてのレファレンスツールの整備	実施	実施拡大	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	継続実施	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施(8回)	
	・中学・高校生へのヤングアダルトサービスのPR	実施	継続実施	

#### 実績と評価

資料の充実については、乳幼児向けや日本の物語の本を重点的に買い替えたが、消費税率の引き上げや本の単価上昇を受け、受入れ冊数の達成率は約98%であった。

行事の実施としては、従来の「えほんの会」に、工作あそびを加えた定例行事「えほんの会ぶらす」を開始した。毎週この会を楽しみに来館している親子連れも多く、回を重ねるにつれ参加者数の増加がみられた。

情報発信として、環境学習で近年話題になっている「プラスチック」をテーマにしたパスファインダーを作成し、調べ学習等の問い合わせに対応することができた。

また、ヤングアダルトサービスでは、夏休みに「めざせ！YA 図書館クイズ王」という参加型イベントを新たに開催し、参加した中学生からは「また参加したい」という声が寄せられ好評だった。

#### 課題

新型コロナウイルスの影響が長期化することを想定して、利用者の安全性を確保しながらイベントの開催や運営等ができる方法を模索していく必要がある。

#### 方向性

新しい定例の行事を実施することで、ある一定の参加者の定着がみられることから、今後も乳幼児からヤングアダルト世代までが読書に親しむ機会を創出し、積極的に提供していく。

### 施策の方向 2-2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	実施充実	実施充実 (50回)	A
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力 (資料依頼件数528件)	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	前年度比増 (前年度107冊受入れ)	211冊	
	・外部機関等と連携した児童・青少年サービスの拡大	拡大充実	拡大充実 (18回)	

#### 実績と評価

「出張おはなし会」は、小学校・幼稚園・特別支援学校で内容の充実を図りながら継続して行っており、22回で1,346名の参加があった。また、「学級招待」では、幼稚園や保育園等6校の子どもたち874名が図書館に来館し、絵本の読み聞かせのほか、図書館のPRを行った。

前年度から引き続き教育センター主催の学校図書館研修会に図書館職員が講師として参加したほか、市内の中学校や高等学校で行われた読み聞かせの実習でも職員が講師を務めるなど、「学校図書館支援センター事業」や学校図書館への協力も積極的に行っている。連携事業は、毎年好評の自然博物館や環境政策課との共催イベントに加え、市民を講師として招いた「秋空えほんの会～こどもとしゃかんで蓄音機を聴いてみよう～」を実施し、子どもの音楽への興味を引き出し、本につなげることができた。また、考古博物館主催行事「考古博物館ナイトミュージアム」で行った絵本の読み聞かせの会には、236人の参加があった。中央図書館では、市内の中学校・高等学校と連携し、中高生が作成した本のPOPをヤングアダルトルームに展示した。POPと一緒に展示した本は貸出が多く好評を得た。

#### 課題

学校図書館向け貸出資料については学習指導要領の改訂にあわせ、多様化する調べ学習の要求にこたえられる資料を充実させていく必要がある。

#### 方向性

幼稚園に出張おはなし会に行った際には、子どもと一緒に参加している保護者に向け図書館のPRを行い、幼少期から図書館や本に親しんでもらえるよう積極的に図書館利用の促進を図る。

## 三つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

### 施策の方向 3-1 「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	前年度比増 (前年度58,007冊)	59,449冊	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域情報の追加及び更新	実施	実施	

#### 実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数は前年度を大幅に上回った。中央図書館の利用者アンケートにおいても、「地域情報資料の充実について」の満足度が 90%と非常に高い数値となっている。

中央図書館では、市内在住の画家の原画を展示した「ひとり画っ展」や、はがき絵展「わたしの市川」を開催した。展示は、新聞やケーブルテレビで紹介され、多数の問合せがあり、来館者にも好評だった。

『広報いちかわ』(旧『市川市広報』)の第 1 号から第 880 号について、目録情報を整備するとともに、令和 2 年度に予定している館内 Web-OPAC のデジタルアーカイブでの公開に向け、画像登録変換作業を開始した。

地域資料のパスファインダー「市川の音楽」を新たに作成・配布した。併せて図書館ホームページの地域情報データベースの内容を更新し、地域情報の積極的な発信に努めた。

#### 課題

地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と資料の劣化対策を計画的に進めることが課題となっている。収集保存している資料について、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

#### 方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。デジタルアーカイブシステムで館内公開する資料の追加更新をすすめるとともに、図書館ホームページの地域資料データベースを活用した情報発信を積極的に行っていく。

### 施策の方向 3-2 「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	内容充実	内容充実 (16回)	A
	・市の刊行物等の販売及び行政情報リーフレット等の配布	継続充実	継続充実 (販売93点)	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各部署への発信	実施	実施 (13回)	

#### 実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した展示は、地域支えあい課、環境政策課、文学ミュージアム等と実施し、毎年継続した連携が定着しつつある。ほかにも千葉県立中央博物館や歴史博物館等と連携し、14 回の連携展示を行った。千葉県立中央博物館所蔵のパネルを展示した「きのこワンダーランド」では、図書館資料や写真の展示に加え、博物館作成リーフレットの配布、こどもとしょかんでも関連した展示を行う等、館内で統一した展示を行った。ほかにも、市川市考古博物館で開催されている企画展示に関連づけたサテライト展示を中央図書館で実施したことで、考古博物館のPRにつなげることができた。

庁内各課へ向け、各部署での政策研究に活かせるよう、レファレンス事例や図書館だより等を発信した。また、各課発行の行政情報リーフレットの幅広い収集を行い、情報の拠点として行政情報の提供に努めた。

#### 課題

行政各部署に向けて図書館が市民に向けた行政情報の集約に努めていることを周知し、連携を深めていく。また、図書館が幅広い行政情報を誰でも使いやすいように整理し、わかりやすい形で情報提供していることについて、市民へのPRが課題である。

#### 方向性

関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画するほか、身近な行政情報や市川の魅力を市民に積極的に提供していく。行政各部署に図書館の活用法をPRし、地域の課題解決やまちづくりに活かせるよう情報発信していく。

3つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者(図書館情報学)2名から意見をいただいた。

**1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館**

・資料の受入冊数が目標値に達せず、このことがB評価となった主因のようである。購入と寄贈を合計した受入冊数は目標の85%にとどまったが、これが購入冊数の減少によるものだとすれば、消費税率の引き上げと書籍単価の上昇のためとする分析には若干の疑問がある。2%の増税、3%程度が上限と推定される全出版物の平均単価増からすれば、購入資料の選書に変化が生じたためではないかと推測される。限られた購入費で購入冊数を増やそうとすれば、低廉な文庫や新書などを多く選書すれば足りることであるが、これは図書館本来の姿ではない。調べ物に応ずるレファレンスブックや専門書等、これからの図書館に求められる資料に応じた結果だとすれば、目標値そのものの設定根拠を見直すべきではないかと考える。

・ICタグの全資料への添付やIC機器の全館への導入が完了し、すでに蔵書管理や、自動貸出・返却機や予約棚の運用などによって効果が発揮されているが、今後もICタグのメリットを活かしたサービスの展開を期待したい。受入冊数は目標には届いていないものの、必ずしもマイナスにとらえるべきではなく、むしろ、「数」だけでなく「質」をどう担保するかという観点から、各館および市全体としての資料配置の在り方などをさらに検討する機会としてはどうか。いわゆるウィズコロナ、アフターコロナを見据えれば、市場の動向などを踏まえる必要はあるものの、電子書籍にも重きを置く方向性も積極的に検討していただきたい。ほかにも、例えばオンラインイベントの充実など、非来館型のサービス拡充が期待されるが、こうしたサービスは新しい利用者を獲得する広報活動としても意義があると思われる。もちろん、自動車図書館などのアウトリーチ的なサービスも重要であることは変わりなく、ステーションの増設はその点でも意義がある。レファレンスサービスに基づく事例集や「月報」の刊行、パスファインダーの作成など、図書館の持つ「知見」を利用者と共有する姿勢は高く評価でき、今後も堅持してほしい。

**2. 子どもの成長をサポートする図書館**

・例年と同様、A評価にふさわしい活動で、なかでも子どもたちを読書と図書館に誘う行事活動と学校連携は、さまざまな試みが十分な成果をあげている。とくに、ヤングアダルト向けのクイズによる参加型イベントはよい試みであり、種々の文化活動と合わせて拡充されることが望まれる。その点では、市民講師による蓄音機を聴くイベントは、よい先行例になったのではないかと考える。

・児童・青少年にとっては多様な本に出会う機会は重要であり、その意味において受入冊数がほぼ目標を達成したことは意義深い。また、行事などを通して読書活動を推進する積極的姿勢が見られる点も高く評価したい。新型コロナウイルス感染症対策のため、イベントが見合わせになるなど、対面型の行事は難しい場面もあったと思われる。今後は、各自の都合で参加できるセルフツアーのような行事、オンラインなどによるリモート型の行事なども重要度を増していくのではないかと。また、直接的な支援だけでなく、すでに実施されている図書館職員による研修講師などの間接的な支援も、子どもたちに対して図書館ができることとしてより強調されていってよいのではないかと。

**3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館**

・地域行政資料や行政情報のサービスも、例年どおり、A評価にふさわしい充実した内容である。地域資料のデジタルアーカイブ化の推進が強く期待されるが、市川市の過去と現在の記録を未来につなげることは、すぐれて生産的な図書館活動である。関係機関の事業との住み分けを明確にし、図書館に求められるものはなんであるのか、改めて確認していく必要があると考える。

・地域資料の収集冊数が前年度を大きく上回ったことは、図書館の積極的な姿勢によるものであり、利用者の高い満足度につながっているといえる。地域資料のパスファインダー作成や地域情報データベースの更新など、情報発信にも確実に取り組んでいる点も評価できる。デジタルアーカイブでの公開に向けた準備も確実に実施されていると受け止められる。今後は、地域文化や行政情報の蓄積・共有・活用に向けて、行政各部署や関連団体はもとより、市民(利用者)との協働を進め、市全体としての動きとして拡げていく役割を図書館が発揮してほしい。

**総評**

・自己評価そのものは、現行の評価の枠組みからすれば妥当である。すぐれた活動を維持していくことは、図書館にとっては大変な重荷であるが、困難な努力を継続し、成果を出していることに敬意を表するものである。

これまでのように、従来のサービスを拡充する一方で、新たなサービスを展開し続けることには限界がある。資料とサービスの高度な電子化によって、対面サービスを基本としつつも、ICTやAIなどを活用しての事業の再構築へ、果敢な一歩を踏み出していいただきたい。

・自己評価は、たいへん丁寧に行われており、いずれも妥当である。市川市の図書館としてできること、すべきことを常に考え、計画的に取り組んでいる職員・関係者の皆さんには敬意を表したい。図書館は、資料(モノ)だけを提供するのではなく、資料の「利用」を中心とする活動(コト)を提供するところとなってきている。市川市の図書館運営は、こうした方向性に沿ったものとなっており、全国に次代のモデルを提示できるものとなるよう、さらなる高みをめざしてほしい。